



Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 90
Issue Date	1936-01-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77685
Type	article
File Information	A010_12738491_Part9.pdf



報

時

務

各

第十九號

岐阜高等農林學校友會

昭和十一年一月三十日發行



(池のほとり)

芒亭書屋談叢

近時頻りに起りつゝある農村に於ける塾風教育の機關は、經營主體が縣や産業組合や農家小組合等の場合もあるが、塾風教育の名に最もふさはしいものは特殊の個人が經營して居る場合である。其經營者或ひは中心人物の抱懷する信仰捧持せる宗教が斯くの如き塾の生命である事は勿論であるが、其は明らかに個人によつて異つて居るから、教育の内容は塾毎に随分色々變つて居る様である。然し其にも拘らず、此等の機關に共通したものがある。精神的鍛練を主として、人物を作らうとして居る事である。村の中堅人物を作るのだと云はれて居る。中には雄大なる國士の氣魄を打ち込もうとして居るところもある。即ち日夜聖賢の道に親ましめ國家興亡の理を講じ志を天下國家に向はしめんとして居る。一家一郷の經營にも一國經綸の器量が必要であるからであらうか。

今夜は妙に底冷えがする。明日は雪かも知れぬ。